

○「大手前1丁目」

(谷町筋の東部から京橋筋まで、京橋通から島町通までの地域)

「偕行社(カイクウシャ)」(現・「追手門学院小学校」と「追手門学院大手前中・高等学校」)

・偕行社は、明治10年(1877)2月、帝国陸軍の将校准士官の親睦・互助・学術研究組織として設立(その後、陸上自衛隊と航空自衛隊の元幹部も対象)されたもので、各地の師団司令部所在地に設立された。

会名の”偕行”は、詩経の「王于興師 修我甲兵 与子偕行」(“帝王が軍を発したならば、あなたと偕に戦いに行こう”の意)によっている。

なお、偕行社の北側には「大阪軍人会館」があったが、昭和20年の空襲で焼失している。

・第4師団の「大阪偕行社」は、明治21年(1888)4月、西日本最古の私立小学校として、現在地に「大阪偕行社附属小学校」(昭和22年11月、「追手門学院小学部」に改称)を創設した。当初は男子校であったが、戦後は平和主義に徹し共学校として再スタートしている。

・その後、財団法人・追手門学園が学校施設等を引き受け、現在地に、昭和22年(1947)4月に「追手門学院中学部」を、昭和25年(1950)4月には「追手門学院高学部」が創設され中高一貫校となった。

昭和42年には、高等学部は大手前に一部を残置して茨木市の追手門学院大学隣接地に移転したが、ここ大手前校舎は、「追手門学院大手前中学校」及び「追手門学院大手前高等学校」と改称されて、現在に至っている。

「東町奉行所」跡の「大阪陸軍病院」(大阪衛戍病院)

(現・「大阪歯科大学附属病院」、「大手前病院」ほか)

「東町奉行所」

・現在の京阪東口(T字路)の南西角地(現・「大阪歯科大学」付近)には、江戸時代に「東町奉行所」と「御代官屋敷」が置かれていた。

・元和5年(1619)8月、大坂三郷及び摂津・河内国の支配を目的として、東西2人の町奉行が置かれた。江戸町奉行と同様に東西1ヶ月ごとの月番制がとられ、それぞれに与力30騎、同心50人が配属されていた。

奉行所は、当初、東西ともに大坂城北西・京橋口の門外に設置(東側が東町奉行所で西側が西町奉行所)されたが、享保9年(1724)の大火で両奉行所ともに焼失した。東町奉行所は京橋口に再建されてのち谷町奉行所となり、幕末まで続いたが、その時の教訓もあって、西町奉行所は本町橋東詰の内本町橋詰町に移転された。

・現在、合同庁舎1号館の南側に「東町奉行所址」碑が建てられている。

「大阪陸軍病院」(大阪衛戍病院)

・明治3年(1870)、大坂城玉造門内(“蓮如上人袈裟かけの松”の北側)に「大阪軍事病院」が開院し、翌年8月、大阪鎮台の創設に伴い、「大阪鎮台病院」と改称された。

明治19年(1886)9月、もと東町奉行所跡に陸軍副病院が開院し、明治21年に「大阪衛戍病院」として鎮台病院の全機能が移された。

② 衛戍(エイシュ)とは、帝国陸軍において軍隊が永久に一つの地に配備駐屯することを云う。

昭和11(1936)年11月、「大阪衛戍病院」が「大阪陸軍病院」と改称され、昭和20年6月のB-29による大空襲により全焼し、終戦後にその敷地(86千坪)は大蔵省に移管され、大阪財務局の管理下に置かれた。

昭和25(1950)年、北側1158坪が大阪歯科大学に払い下げられ、翌26年には5千坪が大手前病院(当時、国家公務員共同職域病院)に無償貸与されることになった。

また、南側には、その後大阪合同庁舎等が建設され、現在に至っています。

「大阪歯科大学および同附属病院」 大手前1丁目5-17(もと京橋1丁目)

・明治45年(1912)1月、現在の枚方市牧野本町に私立「大阪歯科医学校」として発足、大正6年、終業年限4ヶ年の財団法人「大阪歯科医学専門学校」となった。

・昭和10年9月、京橋1丁目に地上3階・地下1階建の付属病院が竣工。新しい治療設備を整え、学生の臨床実習にあてるとともに来院患者の治療にあたった。

・昭和27年4月に新制大学「大阪歯科大学」となり、同36年6月には地上8階・地下1階建の天満学舎が竣工してここに移ったが、大学は平成9年4月に樟葉学舎に移転した。

- ・平成9年3月、地上14階・地下3階建の新病院が竣工し、平成24年3月には創立100周年記念館が建設されている。 歯科全般のほか内科や眼科もそなえる。

<大阪歯科大学附属病院>



昭和10年当時



昭和35年当時



右は現在の附属病院

「大手前病院」

大手前1丁目5-34(もと大手前之町)

- ・昭和26年(1951)6月に国家公務員共済組合連合会の直営病院として開院した。産科、小児科、精神科を除く全領域の高度な急性期医療を展開し、大阪府がん診療拠点病院および地域医療支援病院に指定されている。
- ・病床数は、一般355床と地域包括ケア病棟46床の計401床を有する。
- ・平成16年に、12階建て南・北2棟の近代的なビルに建て替えられた。

「大阪合同庁舎第1号館」

大手前1丁目5-44(もと大手前之町)

- ・昭和33年(1958)10月に竣工した8階建ての東西に長い庁舎。現在、近畿農政局、近畿経済産業局、近畿地方整備局、近畿総合通信局などが入っている。
- ・北側に、東(上町筋)から新館(近畿地方整備局)、第1別館、第2別館が並んでいる。
- ・ビル南側の道路沿い北寄りに、「東町奉行址」碑が建てられている。

「大阪合同庁舎第3号館」

大手前1丁目5-63(もと大手前之町)

- ・昭和48年(1973)9月に竣工した地上15階・地下3階建ての高層庁舎。現在、大阪国税局、大阪国税不服審判所、東税務署や、大阪府刊行物サービスセンターが入っている。
- ・もともとこの地には「東税務署」(昭和25年4月、庁舎新築)があったが、合同庁舎建設の間、船場に移転していた。現在、ビル南側南寄りに「東税務署」と刻した碑が建っている。

「日本経済新聞社ビル」

大手前1丁目1-1(もと京橋前之町)

- ・昭和52年(1977)4月に竣工した地上8階・地下2階建ての東西に長いビル。昭和36年に東京と大阪の2本社制をとった日本経済新聞社の大阪本社が高麗橋から移ってきた。
- ・平成25年4月、先に大阪本社を置いていた高麗橋1丁目に新本社ビルが竣工し、ここには印刷部門のみを残して大阪本社は移転している。

「テレビ大阪・本社」

大手前1丁目2-18(もと京橋前之町)

- ・昭和56年1月、大阪府を放送対象地域として日本経済新聞社が中心となって設立したテレビ放送事業会社で、翌年3月に開局した。テレビ東京の系列局で、リモコン番号は”7”。
- ・旧・日本経済新聞社大阪本社ビルの西隣に建つ「日経大阪電波会館」(昭和57年竣工・9階建て。屋上に電波塔あり)に本社を置く。

「大手前センタービルディング」

大手前1丁目2-15(もと京橋前之町)

- ・日経大阪電波会館の西側(京阪東口交差点の東南角)に、平成4年竣工した地上13階・地下1階建てのオフィスビルで、平成18年にテレビ大阪へ譲渡され、同社の関連会社などが入居している。

「ドーンセンター(大阪府立男女共同参画・青少年センター)」

- ・男女共同参画の推進と青少年の健全育成を目的とする施設で、大阪府を主体に、平成6年(1994)4月に「大阪府立女性総合センター」として設立され、平成17年4月に現在の名称に改称された。
- ・建物は、平成6年8月の竣工で地上10階 地下1階建て。
- ・名称は、公募によるもので、「ドーン」は、“夜明け”や“物事の始まり”を意味する英語で、“ドーンといこう”との大阪の意気込みを感じさせるということから選ばれた。



- ・平成元年、「大阪府立女性総合センター」建設工事発掘調査で、豊臣時代の「大坂城三の丸石垣」の遺構が見つかり、現在、「ドーンセンター」の北沿いに復元・保存されている。
- ・もと、ここには「府立大手前会館」があった。地元の話では、当時では珍しい洋式のトイレを備え、バレエの発表会が催されるなどモダンな雰囲気が感じられる場であった。

○「大手前2丁目」 (もと大手前之町)
(谷町筋の東部から上町筋まで、北は島町通から大手通までの地域)

*「輜重兵第4大隊」(現・「大手前高等学校」、「大阪府庁」ほか)

「輜重兵第4大隊」

- ・輜重兵(シチョウヘイ)とは、水食料・武器弾薬・各種資材など様々な軍需物資を第一線部隊に輸送することを主任務とした部隊で、明治9(1876)年4月、大阪鎮臺のもとに輜重兵第4小隊が編成され、大坂城二之丸に兵営が設置された。
- その後、拡充されて明治20年4月には第4大隊となり、この地(大手前之町)に転営した。
- ・そして、大正9年(1876)5月、大手前4丁目(当時の法円坂町)に転営し、その跡地は翌大正10年(1921)11月、内務省を通じ大阪府に売却された。

「国民会館住友生命ビル」(もと「国民会館」) 大手前2丁目-1-2

- ・鐘紡社長であり衆議院議員であった武藤山治が、「国民の政治教育の殿堂」として私財を投じ、昭和7年(1932)10月に設立した。

定款には、「社会交易ニ資スル為、一般国民ノ政治経済ニ関スル知識ノ普及ヲ計ルヲ以テ目的トス」とある。

地上3階+塔屋3階・地下1階建てで、館内に1500席の大講堂を有する建物は、昭和8年5月に竣工した。

戦前・戦後を通じて数多くの政治講演会が開かれた。

- ・老朽化もあって、平成2年(1990)10月に建て替えられ、地上12階・地下1階建ての「国民会館住友生命ビル」として、生れ変わった。12階には「武藤記念ホール」が設けられており、現在も月1回記念講座が開かれている。

- ・なお、組織は、平成22年に公益法人に改組され、ビル12階に事務局が置かれている。



旧「国民会館」

「大阪赤十字会館」(日本赤十字社・大阪府支部) 大手前2-1-7

- ・明治10年(1877)、西南戦争の折に設立された救護団体である「博愛社」が、明治20年に「日本赤十字社」と改称されたが、その時に大阪府委員部が設置され、同21年(1878)11月、「日本赤十字社大阪支部」と改称された。

- ・当初から事務所を大阪府庁内に置いていたが、昭和4年(1929)3月、現在地に鉄筋3階建てビルが建設されて独立し、その後、現在の9階建てビルに建て替えられている。

「大手前学園」(現・「大手前栄養製菓学院専門学校」) 大手前2丁目-1-88

- ・昭和21年(1946)4月、焼野が原であった大手前の一隅(偕行社跡)に情操豊かな女子教育を主眼として、「大手前文化学院」が設立された。(同23年、大手前2丁目に移設)

- ・昭和26年2月には学校法人・大手前女子学園の認可を得、「大手前女子短期大学」(服飾科)が開学したが、昭和61年(1986)に伊丹市稲野へ移転された。また、昭和63年には「大手前ビジネス学院専門学校」が開設されたが、平成11年(1999)に廃止された。

- ・昭和46年には地上9階・地下1階建の学舎が竣工している。

- ・「大手前文化学院」は、昭和61年に「大手前栄養文化学院」と改称され、平成10年には製菓学科が設置されて男女共学の専門学校となった。その後、「大手前栄養学院」と「大手前製菓学院」の2校に分離した時期もあったが、平成28年に「大手前栄養製菓学院専門学校」と改組され、現在に至っている。

- ・昭和41年(1966)、西宮市・夙川に「大手前女子大学」(平成12年に男女共学となり「大手前大学」と改称)が開学しており、現在、大手前大学・大手前キャンパス(栄養学実習室、調理実習室、パソコン実習室、図書館など)が、ここに置かれている。

- ・現在、新キャンパス(8階建て校舎)が建設中であり、平成30年4月に「大手前大学国際看護学部」(4年制・定員=1学年80名)が開設されることになっている。

「大阪府立大手前高等学校」 大手前2丁目-1-11

- ・明治15年(1882)9月、中之島・常安町にあった「大阪府師範学校」に付属裁縫女学校(小学校の裁縫担当教員を養成)が設けられたのがその源流であり、明治19年9月に「大阪府女学校」として独立し、翌年1月に「大阪府高等女学校」となった。
その時の校地は、現在の大阪大学中之島センター付近で、もと大阪府立模範幼稚園跡であった
- ・明治22年10月1日付で大阪市に移管され、「大阪市立大阪高等女学校」へと改称されている。移管の経緯は不詳であるが、内務省からの指示があったとみられる。
- ・明治33年に策定された”大阪府教育十九年計画”によって府立高等女学校を大阪市内に増設することが決定され、再び大阪府に移管されて「大阪府中之島高等女学校」(2ヶ月後に「大阪府立中之島高等女学校」)へと改称された。
- ・中之島の校舎が狭いこともあって、明治35年(1902)6月、堂島浜通3丁目(もと阪大病院。現在の福島1丁目・ほたるまち)にあった堂島中学校(現在の大阪府立北野高等学校)の跡地に移転し、「大阪府立堂島高等女学校」と改称した。
当時の堂島高等女学校の同窓会である「金蘭会」(1891年設立)は、当時、入学難状態に陥っていた進学希望者への門戸を広げる一環として女学校の設立経営を決め、明治38年4月に曾根崎で「私立金蘭会女学校」を開校した。同校はその後、梅田校舎を経て、大正11年に大淀区鷺洲に移り、戦後、学校法人「金蘭会学園」に改められて、現在は中学校、高等学校に加え、吹田市に金蘭短期大学、千里金蘭大学を運営している。
なお、学校経営権は大正14年(1925)に設立された金蘭会高校の同窓会「芳友会」に引き継がれている。
- ・明治42年の”北の大火”で堂島の校舎が類焼したこともあり、明治43年(1910)4月には大阪駅北側の北梅田町に移転し、「大阪府立梅田高等女学校」と改称された。
しかし、ここも梅田貨物駅の拡張予定地となって、立ち退きを迫られることになり、移転先が色々と検討された結果、大阪府が新たに取得した大手前のもと陸軍・輜重兵第4大隊兵舎跡地(現在地)に決定され、大正12年(1923)4月に校舎が完成して移転、移転にあわせて、「大阪府立大手前高等女学校」へと改称された。
- ・昭和23年(1948)には新学制の実施によって男女共学の「大阪府立大手前高等学校」として再発足し、学区制がとられることになった。この時に、府立北野高等学校と教職員および生徒を約半分ずつ交流している。
- ・この年には通信制課程が設置され(昭和41年に分離)、昭和25年には定時制課程が設置されている。
- ・平成3年、校舎が建て替えられて7階建ての新校舎が竣工し、平成20年には文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール校(科学技術や理科・数学教育を重点的に行う高校)に指定された。
なお、新校舎建設工事に先立って、昭和61年から平成元年まで敷地内(北側)で発掘調査が行われ、金箔押瓦や大坂城三の丸内の建物群の跡が発見されている。
- ・校内に、「昭憲皇太后行啓記念」と刻された石碑が建てられている。これは昭憲皇太后(明治天皇の皇后)が、明治20年(1888)1月から、天皇とともに孝明天皇二十年祭のため京都に行啓された際、大阪にも立ち寄られ、2月16日に中之島・常安町の大阪府立高等女学校」に行啓されたもので、昭和12年(1937)2月、本校で昭憲皇太后行啓50周年記念式が挙行された時に建立されたものである。

「大阪府庁」 大手前2丁目-1-22

- ・大阪府は、明治元年(1868)1月22日、「大阪鎮台」として津村別院に設置され、同月27日に「大阪裁判所」と改称されて内本町橋詰町の大坂西町奉行所跡に移転したが、5月になって「大阪府」に改められた。
- ・明治7年(1874)7月、西区江之子島に2代目庁舎が完成して移転したが、大正15年(1926)11月、もと陸軍・輜重兵第4大隊兵舎があったこの地に、地上6階・地下1階建ての新庁舎が建てられて移転し現在に至っている。この庁舎は、現行の都道府県庁舎として最も古い建物であり内部も重厚な雰囲気が残っていることから、近年では、木村拓哉の主演ドラマ「華麗なる一族」のロケ地となり話題となった。

また、建設時において、工事着工の年に発生した関東大震災の影響もあり、設計の変更が加えられたとされている。

- ・新しい課題も加わって組織も拡大するなかで、府庁南側の道路を挟んだ大手前3丁目に別館(昭和39年7月竣工)および新別館南館(平成7年竣工)と新別館北館(平成9年竣工)が建設されており、新別館南館には大阪府パスポートセンターが置かれている。

- ・その後、ビル耐震化の問題などから新庁舎建設やWTCビル(現咲洲庁舎)も検討されたが、財政面での問題もあって本館の耐震化改修工事が行われることになり、平成25年11月から着手し平成28年12月に工事が完了した。

なお、現在は平成30年末までの予定で耐震性能の低い西館の撤去工事が行われている。(平成29年8月着手)

<参考>

「なぜ、大阪と京都は、”府”なのか？」

- ・現在、全国の都道府県において、大阪府と京都府のみが”府”となっているが、これは、明治維新直後にそれまでの幕府支配地のうち、江戸町奉行の支配地および遠国奉行の奉行知行所を「府」と改めたもので、かつて都が置かれた東京・大阪・京都のほか外国船の開港地であった神奈川や長崎、新潟など9ヶ所が「府」とされていた。

しかし、明治2年7月の太政官布告によって、東京府・京都府・大阪府以外の6府がいずれも県に改められ、その後、昭和18年(1943)7月の東京都制施行によって東京府と東京市が東京都に改編された結果、大阪府と京都府が残って現在に至っている経緯がある。

なお、奈良は、発足当初「奈良府」とされていたが、2か月後に「奈良県」に改称されている。

「大阪府公館」(もと大阪府知事公館) 大手前2丁目-1-88

- ・大正12年(1923)、知事の居住施設である「知事公舎」として建設された。(敷地面積=約817坪。鉄筋コンクリート2階建て)

- ・平成4年には、府民との対話や来賓の接遇など知事に関係する行事に使用するため、大サロンを増築し、名称が「大阪府知事公館」に改められた。

- ・さらに、平成20年には、知事に関係した行事の使用のみから、各部局の会議や主催イベントなどに使用する形に改められ、「大阪府公館」と改称された。



「大阪府職員会館」

- ・府庁舎の裏手(北西部)にあり、昭和33年に建設された府職員のための施設(4階建て)で、労働組合の事務局などが置かれていたが、現在は職員会館分館として倉庫などに利用されている。